

# 長原遺跡

長原遺跡は、大阪市平野区の長吉長原・長原東・長原西・川辺・六反・出戸一帯に広がる旧石器時代（約3万年前）から続く大遺跡です。発掘調査によって、長原の歴史と当時の人々の暮らしが徐々に明らかになってきました。

## 旧石器時代

長原で人々が生活を始めたのは、約3万年前にさかのぼります。このころは氷期にあたり、人々は狩りをしながら移動生活を行っていました。石器づくりを行ったキャンプ地が、長吉六反1丁目と長吉川辺3丁目で見つかっています。



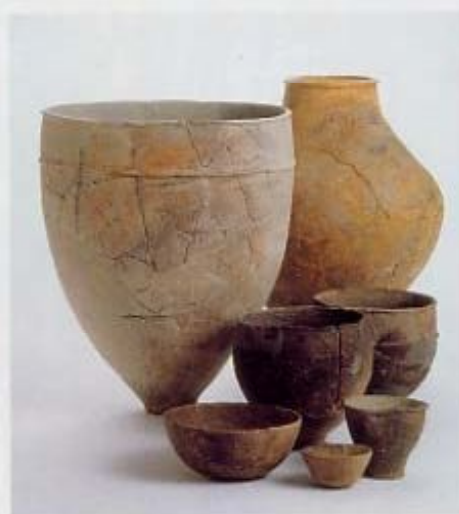
上：約1万7千年前の石器群（長吉六反1丁目）  
左：赤い旗が石器。2万5千年前に南九州から飛来して降り積もった火山灰（AT火山灰）の下で発見。（長吉川辺3丁目）

## 縄文時代

温暖な気候になり、山・海の幸に恵まれた時代です。市内最古となる縄文早期（約8000年前）の住居あとや、晩期の住居あと・土器棺墓が見つかっています。晩期の土器は「長原式土器」と呼ばれ、弥生時代へ移り変わる時期のものです。



上：縄文早期の撚糸文土器・押型文土器（長吉六反2丁目）



右：長原式土器のセット（長吉川辺3丁目）

## 弥生時代

米づくりが本格化し、ムラを治める有力者が登場します。長吉長原東1・2丁目付近には当時のムラが眠っており、<sup>たてあびしゅうきょ</sup>竪穴住居あとや<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>方形周溝墓が見つかっています。水の得やすい場所には水田がつけられました。



弥生時代の水田（長吉川辺3丁目）



竪穴住居あと（長吉長原東2丁目）

## 古墳時代

5世紀代、この地には朝鮮半島南部から多くの人々  
が移り住んできたようで、  
韓式系土器や初期須恵器が  
多く出土します。

古墳も多数見つかってい  
ます。現在は地中に埋れて  
見ることはできませんが、  
小型の方墳を中心に200基  
以上が調査されています。  
古墳には様々な形の埴輪が  
立てられ、特に高廻り2号  
墳出土の船形埴輪は、当時  
の造船技術を伝える貴重な  
資料として、重要文化財に  
指定されています。



渡来人が使用した韓式系土器（長吉長原東1丁目）



長原古墳群の埴輪いろいろ



4世紀後半の円墳である一ヶ塚古墳（長吉長原西4丁目）

## 飛鳥・奈良時代

難波にも都が置かれたこ  
の時代、長原では土地開発  
が進みます。台地の上には  
大規模な人工の水路がつく  
られ、広い範囲が水田化さ  
れました。低地を流れる川  
からは、人面土器などのま  
つりの道具やウシ・ウマの  
骨が多数出土しています。



上：古墳のまわりに広がる水田（長吉長原2丁目）

右：墨で顔が描かれた人面土器（長吉出戸8丁目）



## 平安時代以降

長吉長原1丁目で行われ  
た調査で、平安時代の井戸  
から「長原里」と書かれた  
木簡が出土しました。「治暦  
二年」（1066年）の年号  
が記されており、当時から  
この地が長原と呼ばれてい  
たことがわかります。

木簡の内容は土地の争  
いごとを記したお触れ書  
きです。

このころから東西南北  
の条里区画に沿った土地  
開発が進み、屋敷地のま  
わりには水田・畠が拡  
がっていきました。



在  
長  
原  
里  
(拡大)

「長原里」木簡（長吉長原1丁目）